

令和6年度第2回札幌方面江別警察署協議会議事概要

第1 開催日時

令和6年11月8日（金曜日）午後1時30分から午後2時45分まで

第2 開催場所

札幌方面江別警察署 署長室

第3 出席者

1 協議会委員 4人

会長 村山 昭二

副会長 支部 英孝

委員 齊藤 佐知子、近藤 澄人

2 警察署員 5人

署長 米原 良己 副署長 工藤 俊介

刑事・生活安全官 鈴木 竜太 地域・交通官 打矢 真基

警務課長 磯角 行男(庶務担当)

第4 開催状況

1 会長挨拶

2 署長挨拶

3 前回（令和6年8月8日開催）の提言等の業務への反映状況

投資詐欺を偽装した詐欺事件の防止について

自治体にある消費者協会と情報共有することが住民へ情報を伝達するためにも大切、実事例に基づく防犯講話の実施

【反映状況】

- ・ 警察で認知した情報をその都度消費者協会に連絡し情報共有を図るなどして、消費者協会との関係の深化を図った。
- ・ 警察署にデジタルサイネージを導入して、来庁者の視覚に訴える情報発信を行った。
- ・ 実事例に基づく防犯講話の継続実施を行った。

4 業務推進概況説明

(1) 犯罪発生状況等

(2) 特別法犯関係検挙状況

(3) 犯罪発生抑止に向けた各種啓発活動

(4) 交通事故発生状況等

(5) 署員の活動状況

第5 諮問事項

「飲酒運転の防止」について次のとおり提言した。

【委員】 年末年始にかけて、飲酒運転の増加が心配される。

酒を提供する店側から飲酒運転しないようアプローチするのは困難と考えるが、飲酒している環境の中で注意喚起する状況をどう作るのか

【警察】 店側には、会計時に代行運転の要否の確認、店内へのポスターの掲示を依頼しており、自主的にはハンドルキーパーを決めるなどして飲酒運転の防止を図ってもらっている。

- 【委員】 更に広く継続して広報するのがいいと思われる。
代行運転の利用数は把握できているのか。
- 【警察】 代行運転の利用数は把握していないが、江別市の代行業者は飲食店街付近で待機しているなど、札幌市から比べると江別市は利用しやすい環境にあると思われる。
- 【委員】 飲酒運転根絶には、商工会、工業団地、建設業界などを通じて「飲酒運転防止」について要請し再徹底を図るとともに、この際に具体的事例を伝えるなどしてインパクトを与える。
また運転免許証を更新する際にも声掛けするのも一つの方法ではないかと考える。
- 【警察】 今後の活動の参考とします。
- 【委員】 飲酒運転ゼロボックスの内容が警察署に伝わるまで、タイムラグがあると説明を受けました。
システム的な話になると思いますが、住所を入力したら管轄警察署にもデータが送られてくるように改善する方法が効果的ではないか。
また、ホームページへのアクセスが面倒という人もいると思うのでQRコードを広めた方が良いのではないかと。
- 【警察】 今後の参考とします。
- 【委員】 言葉よりも映像の方がインパクトがあるので、市民に対するイベントや講話では、飲酒運転のものを活用した方がよいのではないかと。
- 【警察】 当署でも飲酒運転に関する映像があり活用しているので、引き続き効果的な活用を行う。
- 【委員】 QRコードを読み込めない携帯電話もあるので、「読み込めない場合は〇〇へ」という記載を追加した方がよいのではないかと。
- 【警察】 今後の参考とします。

第6 質疑応答

- 【委員】 日没時間が早くなる時期ですが、最近歩行者が車道を歩いているのを見かけ車からは見えにくく危険に感じたので、歩行者にも、暗い時間帯は夜光反射材をつける、明るい服装をすることといった「自分の身は自分で守る」という意識を定着させるためにも、情報発信をした方がよいと考える。
- 【警察】 夜光反射材の着用などは車側から歩行者の視認性を高める効果が認められますので、継続して情報発信を行います。

第7 次回開催予定

令和7年2月中に開催予定。